



にじのはし幼稚園 園だより



令和 5 年 5 月 号
港区立にじのはし幼稚園
園長 石川典子

新年度が始まり 1 か月が経とうとしています。園児は新しい環境に少しずつ慣れ、園庭で元気に泳ぐこいのぼりに負けじと、伸び伸びと心と体を動かして遊びを楽しんでいます。

園では端午の節句に向け、年長児が五月人形を飾りました。普段は目にしない様々な道具に興味をもち、じっくりと眺める姿が見られました。学年ごとに幼児の実態に合わせて、発達を促し体験が深まるようなこいのぼり製作を行います。作品に期待感が膨らみます。こどもの日の集いでは、行事の由来を伝え、友達や先生と一緒に柏餅を食す機会をもちます。伝統文化に楽しく触れながら様々な心動く体験を通して、子どもたちを豊かに育てていきます。



にじのはし幼稚園は『社会に開かれた教育課程』を推進します。

○お台場学園港陽小学校・港陽中学校、地域、保育園との連携を図り、幼・保・小・中での学びの連続性を重視した教育を推進し、地域の幼児教育の質の向上において、リーダー的役割を果たします。

・幼保小中連携に取り組み、研究保育・研究授業等で幼児教育・小学校教育を深く理解し、教育の接続を推進します。 (幼稚園経営計画 4 経営の重点の今年度の主な取り組み (6)より)

子どもたちの“学び”は生まれてから高等教育まで連続していきます。幼児教育では子どもが主体となる遊びの中で直接体験を通して、小学校以降の教育の基盤となる資質・能力を育てています。令和4年、5歳児と小学校1年生の2年間の「架け橋期」は、学びや生活の基盤をつくる時期として、より一層、教育の充実を目指すことと示されました。

本園は、4月中旬に台場保育園・アスク保育園の教員・保育者と一緒に、入学直後のお台場学園1年生の体育と国語の授業を参観しました。協議会の中で、お台場学園・本園の学校運営協議会会長を勤められ、文部科学省 国立教育政策研究所総括研究官でいらっしゃる 山森光陽先生から『就学前と小学校の接続』についてご講義いただきました。保幼小の保育者・教員で、子どもたちの資質・能力を育てる教育の在り方について協同・連携して学んでいます。

幼児教育と小学校教育の学びのスタイルは違いますが、保幼小の教員は校種の枠を超え、義務教育開始前後の5歳児と1年生の2年間の発達を見通して、目指す子ども像を『主体的に深く学ぶ子ども』と共通の願いをもち、それぞれの教育環境や内容を工夫しています。

お台場の子どもの成長を切れ目なく支えるために、一人ひとりのよさを未来につないでいくために、幼児教育と小学校教育の連携や円滑な接続に向けた教育を推進してまいります。

